

ひろば大代

NO.194

大代公民館

祝敬老の日



多年に亘り地域に貢献、あるいは子弟の育成に努めて頂いた先達の方々に対し、国民こぞって感謝の意を表し長寿をお祝いする日であります。

大代町では九月十五日（金）午前十時半から中学校屋体に於て二百六名の方々を対象に敬老会を開きます。

町民の皆さん、ご協力の程よろしくお願い致します。

	男子	女子	計	
70代	58	87	145	
80代	27	26	53	
90代	1	7	8	
合計	86	120	206	

★米寿の祝（八十八才）二名（略敬称）

田辺文郎（椿）明治39、12、6

渡井鶴吉（植松）明治40、6、22

★喜寿の祝（七十七才）七名

井谷フジヨ、武田實、立野保雄
室田フイ、高村トキヨ、原田定
向井悟

★新入会員 二十名

「七十七才を迎えて」

下市 立野保雄

私が物心ついた頃、母親はすでに亡く、父一人に育てられ大家の小学校へ三十数名の友達と共に入学しました。卒業後は父とも別れ広島の叔母を頼って働きに出て行きました。その頃から地球はどうして出来たか、人はどこから来たのか、神佛は居られるのか、前世来世は有るのか、そんな疑問を持つ様になっておりました。

そして色々の宗教教会等を探ね説教を聞いたたり、そういった書物も随分と読んだのもその頃でした。そして概念だけは判った様な気がしていましたが結局宗教に深くかかわる事もなく、完全な答は今になっても出て居らないのが実情です。そうした中、自分は何才まで生きられるのか。せめて七十八才迄位はと思うようになり、いつか自分

の寿命を七十八才と決めるようになりました。

当時人生は五十年と言われ、七十八才の年月は遠い／＼先の事でした。

やがて戦争が始まり、私も二度の應召を受け、戦火銃弾の中、無我夢中の十数年が過ぎて行きました。戦争は思わぬ結末で終局を迎えましたが、多くの若い人々や友達の幾人かは帰って来ませんでした。

私は負傷はしましたが、故郷に帰って皆様のお陰で一家を築き、子弟を養育し、大過なく七十七才を迎える事が出来ました。有り難いことと思っております。

これからまた社会の為、故郷の為に働かねばならないのですが近年体調が悪くそれが出来ないのが残念です。

あと幾年かの寿命、皆様のお世話になりながらも神佛の实在を体感出来たらと思っております。

「敬老の日を迎えて」

下市 原田照子

この度敬老会にお招き下さいまして

有り難く、出席させて頂く大きな喜びを、ひしひしと感じて居ります。

日頃私は「和」を第一に、お荷物にならぬよう一日一日を大切に、言い聞かせております。

貧しい寺に生まれた私は、不思議な御縁で父の里へ拾うて貰いました。御佛様のお慈悲にすっぱりいだかれて又門信徒の皆様にも、お助け頂いている事感謝の念で一杯でございます。

生かされた七十年を振り返りますと恥じる事ばかりで、後悔の涙しきりです。病は二つ三つ持ち合わせて居りますが、何とか付き合せて居ります。そして尊い体験を一杯お持ちの方々の仲間入りをさせて頂きますことを有り難い幸せと存じます。

至らぬ私でございますが、よろしくお導き下さいますようお願い申し上げます。

第十回都市とふるさとを結ぶ

交流会を終えて（報告）

会長 渡 吉正

八月十五日は朝から三十度を超す炎

天下、十時から五十余名の戦没者ご遺族と来賓をお迎えしての「戦没者追悼式」を行う、会長の私と顧問の市原仁郎市議会議員の「追悼のことば」があり「戦没者之碑」へ献花礼拝ののち遺族会長の泉朋納氏の献花を始め、来賓・ご遺族の方々の献花、続いて主催者側の献花を終えて、泉遺族会長の謝辞があり式典は滞り無く終了した。

石碑前での追悼式は初めての事のようにであった。

十一時頃より「第十回記念・都市とふるさとを結ぶ交流会」式典を行う。この一年間に亡くなられた十名の会員物故者の御冥福を祈る一分間の黙祷を捧げた後、主催者大代石見高山会々長の挨拶（主に東京、関西の事件へのお見舞とふる里の上半期の事の次第を報告）続いて「功労者の感謝状贈呈」、前東京石見高山会々長の渡俊則氏と前同会事務局長の米原光義氏（病気のため代理出席）へ感謝状と記念品を手渡した。

祝辞は東京石見高山会事務局長の松本健一氏（会長の田中憲経氏は海外渡航で欠席）と関西高山会副会長の田辺

正義氏（会長の市原宗氏は海外出張のため欠席）であった。

昼前からは三町内からスタートした「田植囃子大行進」の一行（百八名）が公民館広場に入り、小笠原流大代田植囃子愛護少年団を先頭に大代中学の先輩諸兄がその後が続いての一大ページェントは実に壯観であった。

午後一時前頃から大代婦人会有志八名による出し物「祝儀の謠」や「大正琴演奏による祝歌の書初め」、そして「浪曲入りの歌謡曲」の前座で「交流会」のパーティーが始まった。次第に元気が出て東京の松野広氏の「替唄、角力甚句」など、すばらしい飛び入りがあってパーティーは百五十人を超える賑わいであった。

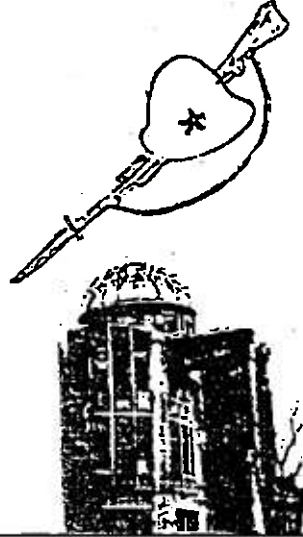
夕刻七時前から激しい雷雨に見舞われて「大雨警報」が発令され、公民館広場での「高山神楽上演」は中止せざるを得なくなった。これは誠に残念であった。

翌十六日午後七時過ぎから、日中に湧いた大やぐらの上で太鼓が打たれて坂本春雄氏の口説く「大家城山落城悲話」の口説きが広場いっぱい響いて

やがて二重の輪に広がっての『追善盆踊大会』は大盛會になり、二日間の交流會は大団円となった。

今回は関西大地震の後で帰省客の足取りが危ぶまれたが、百八十名の県内外の皆様をお迎えしてのこの記念大会が大盛會で終了したことは、帰省の皆様、そして各種団体、スタッフ一同のお陰であることを深く感謝してご報告と致します。

戦時体験記



「外地での終戦」

椿 柿丸寿枝

昭和二十年八月十五日、私は国民学校の（私達の年代は入学時は尋常小学校、二年生で国民学校と改名され、終戦によって又小学校に変わり卒業は

小学校）六年生の夏休み。あのアカシヤの街大連で迎えました。大人達は日本が連合軍に無条件降伏をした玉音放送のことで騒然としていました。

私も友人達ときっとデマだろうと話し合ったものです。学校の授業を言えば教育勅語、軍人勅語の暗唱、手旗信号、モールス信号、匍匐の練習、手榴弾の投げ方と、戦時下の子供達の務めとして日本の勝利を信じ、信じさせられていました。

それがあの八月十五日を境にして長い間培われ、堂々と築きあげてきた私達の生活は根本から覆させられ、中国人は手の平を返して見せながら日本と中国の立場が逆転したことを主張し、すべてにおいて、敗戦国民としての悲惨さを私達は嫌が上にも味わうのでした。

一週間位過ぎた頃にはソ連兵が進駐して来て「ダワイ／＼」と時計や貴重品等を取りあげ、日本の軍人達は何処かへ連れ去られ、脱走して民間人の所へ隠れていた人、隠れていて見つけ出された人等々、子供心に感じたあの終戦直後の混乱の模様は今でも到底言い

表すことは出来ません。

預金も引き出すことも出来ず、働く場所もなく結局、女子供の家庭は長い間かかって求め貯えて来た品物を売るしか生きる方法がなく、結局売り食いをして生き延びたものです。

街々には着物や帯を腕に下げた日本人が道行くソ連の兵隊達や中国の人々にお世辞を言いながら、それ等を買って貰う、安く安く値切られ叩かれても売らなければその日の食べ物を買うことが出来ない人々が満ち溢れていました。

今この飽食の時代、あの頃の食生活を思えば本当に鳥の餌にもならない様な物を食べていたのだと思います。それでも大人達は

「日本に帰れさえすれば、内地に帰れたら」を合い言葉の様にして頑張っていました。

私は外地で生まれ、日本の土を踏んだことはありませんでした。でも見たこともない日本の国に帰りたい。日本に帰ればこの惨めな今の生活を続けなくて済むのだと、本当に引き揚げ船の来るのを一日千秋の思いで待ったもので

す。

住み馴れた家は没収され、指定された所に移転を命じられ、一回二回と引越しを繰り返させられたり、又学校も同じ様に没収されて、中国東北部から避難して来た人々の生活の場になっ
ていました。避難所の人達のことを思えばまだ私達は幸せでした。いささかの物を持っていて売り食い出来たからです。その方々は身ひとつで逃れて来られ、年老いた人を背負っていた人、傷ついた人と本当にポロポロと言う言葉が当てはまる状態でした。

昭和二十二年三月十二日、待ちに待った引き揚げの順番が来て大連阜頭に集結、恵山丸に乗船した時の嬉しさは今でもふと思えば、胸が熱くなり涙してしまいます。

なにもかも失いリュックサックひとつで佐世保に降り立った時には、私があの中東北部の避難民の方々を見た様に内地の人には、きつと私達の姿はポロポロに映ったことだと思えます。

戦後五十年を迎えた今年、今更の様に過ぎ去ったあの頃を思い出さずには
いられません。

そして現在、こうして平和に静かに暮らせることを改めて有り難く思うと共に、この幸せの日々を与えて下さったすべての方々に深く深く感謝の念を新たに
して居ります。

*** 九月行事予定 ***

*** 1日(金) 福祉委員会

◆ 3日(日) 福祉弁当

◆ 5日(火) 編集委員会

◆ 15日(日) 大代町敬老会

◆ 17日(日) ゲートボール大会

◆ 19日(火) ダイヤゾーンボール教室

★—★おしらせ★—★

◎大代公民館から

都市交流会において御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

東京石見高山会様 関西高山会様

田中憲経様 渡 俊則様

奥田房市様 今田 潔様

窪田忠雄様 東野美月子様

宇井好恵様 森下孝明様

田辺利正様 松本健一様

◎大代はつらつクラブより

「秋の交通安全運動始まる！」

来る九月二十一日(木)より三十日(土)まで秋の全国交通安全運動が始まります。

交安協、交対協、交通安全母の会の役員の皆様にはいつもご協力を頂いておりますが今回もよろしくお願い致します。

ダンブが依然として町の中を走り廻っておる現状ですので、お互いに注意をしてこの運動を成功させましょう。

◎社協大代支部より

下飯谷 佐々木久子様から

香典返しに替え金一封の御厚志を頂きました。厚く御礼申し上げます。

